



114
A 315

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

大隈大藏卿殿

別紙之通尚又内務卿
 何方之由詮豫被成之
 此候上中候也
 然案内權之官圖致
 明治十一年六月十日

1550



大正十一年四月
大隈侯爵

寫

縣下人情不穩之際警署如キハ警察之志
重文ノ事付、候受出第也恒大書記友之
意見強強行令自二運、出、思、有、之
不平黨ハ母ニ觀、願、官、多、ハ、肉、於、武、日、抱、キ
謀ニ危急ノ者、掛、リ、付、警、署、事、務、ハ、當、由
分下官一手ニ取計、方折、合、之、可、宜、ト、思
考、於、付、所、限、止、垣、書、記、友、江、及、協、議、所、所
別、係、之、通、リ、書、面、ヲ、以、テ、申、出、有、之、到、所
先、般、具、申、出、通、リ、和、合、協、力、之、見、江、無、之
格、波、上、之、障、碍、不、少、不、堪、痛、心、甚、廣、候
留、仰、蒙、リ、先、般、上、申、出、之、次、等、手、至、急、何、分
、速、速、議、被、成、之、格、致、發、出、所、尚、又

上申也也

明治三十二年六月十八日 總理大臣 藤田鳴鶴



内務卿 伊藤博文 殿

五十二年四月 限候 藤田鳴鶴

一昨十四日警察廳事務上より國事警察廳事務
 法ヲ定算スル所ノ意見ヲ呈シタルニ貴人ハ其意見
 書ヲ豫セサルニテ向來警察廳事務上ニ於テハ
 一切議ヲ起ス可ラス之ノ理由ハ其所論回一ニサレテ
 以テ命令ニ違フニ由リ害アリ屬官ヲシテ迷フ生セ
 シルノ慮アリ之レニ由テ警察廳事務ハ長官一人ノ擔
 當ヲ解決トスル宜シトスル云々陳述アリタル以テ國道
 ハ以テ不可ナク其辯ニ及ヒタル貴人ニ之ヲ容ラレシ
 尤モ退テ再三熟考後復國家ノ憲法各々職制
 ノ權限ヲ定ムルアツテ私ニ之ヲ勸カス可ラサル固ヨリ
 論ヲ待タス且又長次官ノ所論意見一々回一ニ出
 ルノ理ナク次官ハ長官ノ附和者同ノ可キ者ニモ

アル可ラス蓋シテ職制ニ據テ次官ハ十分其
意見ヲ述ヘ長官ハ十分之レト儀ヲ盡シテ右明
取撰スル者テハ豈敢テ命一名ニ違ヒ出ルヤ
可ケンヤ右ノ次第ヲ以テ見レハ國家ノ憲法ニ對
シ已レ職務ニ於テ敬重事務を判ノ權
限ヲ拋棄スルハ決シテ有テリ本軍務付不
止責スル之ニ從フコト得ス大政府ヨリ別
ノ命令々々之ニ於テハ右憲法ヲ準守シ部内
ノ諸事務を判ノ職ヲ盡ス可ク候也

明治十年六月十六日

小畑大書記官

之南國權令殿